

目的 近年著しい既製服利用率の伸びに伴い、サイズやパターンの適合性に関連して Dress Dummy が種々開発されている。今回は、適合性の高い衣服パターン製作の基礎資料を得ることを目的として、市販されている成人女子用の肩から胸部にかけた部位の形態を比較検討し、さらにそれらによって作成した胴部原型の体型適合性を検討した。

方法 Dress Dummy は 4 種類を選び、若年婦人の標準体を対象としたサイズ表示のものを用いた。①形態把握は、モアレ法によった。②体形適合性は、それぞれの Dummy よりおこした胴部原型と着用者の体型にあわせて作成したものの計 5 種類の実験服（未晒綿布）を作り、表示サイズに近い標準的寸法の着用者 10 名（19～20才）をえらび、一対比較による着用実験をおこなった。その結果はシェッフェの方法により分散分析した。

結果 縦・横の断面より形態把握を試みた結果、後面・前面とも chest line あたりから上部にふくらみ（ゆとり量）をもたせたものと、chest lineより下部に比較的ふくらみをもたせたものとがある。これより、頸付根の周り・肩甲上部・肩峰部に入れるゆとり量による形態の相違が着用時に影響を及ぼすことが推察された。次いでおこなった原型の着用実験は、反身体型と屈身体型にわけて分析した結果、反身体型では Dummy の形態特徴と関連があると思われる結果が得られた。